

1947年趣味週間小型シートの切り抜き貼り

永吉 秀夫



第1 地帯あて航空便書状(料金 35 円) 代々木 S29(1954).5.4 → 韓国

会報 313 号では丸ごと貼りを紹介しましたが、今回は切り抜き貼りです。前回も書いたように、この小型シートは大量に製造されて売れ残り、切り取って普通切手として販売されたとも言われるのですが、その切り抜き貼り実通便は簡単に見つかるものではありません。

本小型シートの印面はタイプ 1 (稲妻の切れ込みあり) であるのに対し、刷色うす青の普通切手の印面はタイプ 2 (稲妻の切れ込みなし) なので、単片貼りのカバー上でも両者の区別はつきまします。普通切手貼りとして 1 通 100 円くらいで売られている封筒や葉書の中に「うす青タイプ 1」が紛れていないか、ずいぶん長いこと探してきましたが、望みは叶いませんでした。

もうあきらめて、上のようなカバーを買いました。耳紙が大きく残された状態で封筒に貼られているので、一見して小型シート切り抜きとわかります。さすがに 100 円というわけにはいかず、結構な対価を支払うことになりました。

差出は JPS の創始者水原明窓氏で紛れもない郵趣家便、発行から 7 年以上も経った頃の使用ですが、まあやむをえないところでしょう。韓国あて航空便書状料金 35 円のうち船便料金 24 円分を記念切手(観光地百選「蔵王」)貼りとし、差額 11 円の端数分として切り抜き 1 円切手を活用しています。まあ、その辺に転がっていた小型シートを切り抜いて貼ったのでしょう。

ところでこの封筒の左方には、四角い枠のゴム印が押されていて目を引きます。韓国海軍の検閲印のようですが、詳しいことは調べていません(どなたかご存じの方がおられたら教えて下さい)。朝鮮戦争が終わって間もない頃のこと、まだ郵便物の検閲が行われていたのですね。もしかして差出人がブラックリストに載っていたから？